

沙羅の樹文庫だより



初夏になったり冬に戻ったりしながら、新年度・新学期が始まりましたね。野山もすっかり衣替え。

文庫あれこれ◆ここに来る度季節の移ろいを強く感じ自然を畏敬する日々ですが、今年の3月4月は特に木々の芽吹きに心を奪われました。緑もみんなその色が違うのですね。文庫の庭の、3月下旬にはまだ枯れ木だった姫シャラが、先週枝先にちょっと赤い塊が、と思っていたら滞在した1日2日目には小さな若葉を開かせ、昨日(4.18)やってきたらすっかり若緑におおわれていました。庭の大手毬の花も緑からはっとする白にかわり、クリスマスローズもうつむき加減に咲いて、垣根の野ばらがいっぱいに蕾をつけています。◆3月にそれぞれの課程を修了した子どもたちは元気に新しい学校へ通っているのでしょうか。はじめて文庫を開いたとき年長さんだった常連さんたちは中学に行っても文庫に来てくれるのでしょうか。私たちにとってみんなかわいい孫たちです。新1年生も増えてくれるとうれしいのですけれど。◆さて、われら老人にも春は巡ってくるわけですが…。先日大学の同期会がありました。今年古希を迎えるにあたって、ということで。卒業以来会ってなかった人も、変わらない人もすっかり変わった人も、50年近いその後の人生を生き抜いてきたわけで、みんな年輪のあるお顔でした。最近の自分の顔や姿になれていた私は、幹事さんが用意してくれた卒業時の写真にちょっと驚きその画像を主人に送ったら、どうもよほど昔が恋しくなったと見えて、その写真をプリントして小さなフォトケースに入れて持ち歩き始めたようです。まずい顔でも若いということはよい、ということですかしら。みなさんも元気で輝いていたことを思い出しましょう！そして今に至ったこのときを謳歌しましょう。◆来月はアートフェスティバル週間。11日から20日まで開けています。たまにはたっぷり時間をかけて読みたい本を見つけてみませんか！スタッフも文庫の本を掘り起こしてみますね！◆<懐かしい本>アンケートにご協力ください。(西村)

♥駐車のご協力感謝いたします。引き続きお願いします♥

5月の催し物のお知らせ

- ♥アートフェスティバル参加：11日～20日開館
テーマでめぐる文庫まるごと展
文庫の本を面白いテーマ別にならべてお見せします
- ♥若葉のころのおはなし会
18日夕5:00～ (大きい人向け)
19日午前10:30～11:45(子ども向け)
ゲスト：立川おはなしボランティアの皆さん &
★100かいだてのいえの岩井俊雄さんご夫妻
- ♥本について語りましょう会・好きな本・懐かしい本
12日(日)午後3:10～5:30

7月の催し物のお知らせ

- ♥海の日のおはなし会 会場は伊豆高原駅大楠の下
7月14日(日)午後5:00～7:30
- ♥文庫開館記念子どものためのおはなし会(文庫で)
7月15日(月)午前10:30～11:45

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

- ◆4月は通常 20日(土)、21日(日)
 - ◆5月は変則 11日(土)～20日(月) long
 - ◆6月は通常 15日(土)、16日(日)
 - ◆7月は変則 13日(土)、14日(日)
- 開館記念日が海の日ですので、7月文庫の開館日はそれにあわせます。(第2の土日です)
※15日午前は開館記念日おはなし会
- ◆8月は 16日(金)～20日(火) long
 - ◆9月は通常 14日(土)～15日(日)
- ※文庫の時間：土曜日は午後2時～5時、
日曜日は午前10時～午後3時
※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。
午前10:30～11:00

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
おはなし・沙羅の勉強会は
毎月第3土曜 11:00～13:00

沙羅の樹文庫 電話 0557-51-3737

みなさん、ご存知でしたか？

静岡ではこんな風に鳴くのですって！

つんと五粒、二朱負けた
五文貰って、元にした・・・頬白

父さ、うっちゃったか・・・時鳥

親死ね、子死ね、
四十九の餅を掲げ・・・四十雀

北原白秋編『日本伝承童謡集成
第二巻(天体気象・動植物唄篇)』より
★全国各地の子守唄、遊戯唄、歳時唄・雑謡篇あり★

面白いですね。地方によってまた全然違います。
今度鳴いていたら、耳をすましてみてください。

文庫 こぼればなし

文庫の会員さんは年齢も個性も様々です。その中で今年97歳のIさんのことを少しご紹介したいと思います。

Iさんは沙羅の樹への入会時点でもう90歳近くでしたので、私たちはびっくり、驚いたと同時にとても嬉しかったものです。なんだか、私たちもその年まで本が読めるんだと思って。

そしてIさんは毎月、ご近所さんと連れだつてエッセイや、読んで楽しくなるような本をたくさん借りていらっしゃいました。ところが、昨年春頃からひざの具合がよろしくなく、文庫へいらっしゃれなくなりました。

そこで、Iさんの近くに住む私が楽しんでい

ただけるような本を選んで7～8冊届けるようになりました。でも、選ぶ私の方もだんだん持ちネタが少なくなり思案にくれ、文庫の仲間たちに聞きまくって選んでいたさ中、ふと私の好きな本もおすすめしてみようと、秋頃からは、大人の本の中にヤングアダルトの本も入れ届けるようになりました。

この2月のことです。私は大好きな『赤毛のアン』を思いきって10冊の本の中に入れてみたのです。そうしたら、私が返却のためにお宅へ伺うと、Iさんは『赤毛のアン』を夜半までかかって読み切ってしまったというのです。

『赤毛のアン』は、私の人生の節目節目で何

度も読んできた本なので、97歳の方にも夢中で読んでもらえたことがとてもうれしく、またIさんのアンの世界へ飛び込める若さに大きな驚きを感じました。スタッフをしていると、こういう感動を味わえるのでなかなかやめられません。
(森川 理恵)

2013年4月に読んだ本についての感想

2013年4月18日 By 森林浴

『母の遺産 新聞小説』水村美苗著 中央公論

新社刊 2012年3月第1刷

前にこの人は書く物すべて何かの文学賞を受賞するかも、と書いたような気がするが、この

本も大仏次郎賞を受賞。昨年 12 月 13 日の朝日新聞の大仏次郎賞の受賞の記事で 8 人の選考委員が選評を書いており、私が今更書くこととてないのですが、524 ページの長編小説はとにかく祖母・母・自分と三代の女の情念・執念・怨念(?)の記録で、夫を含めて男性側は影が薄いというか、添え物みたいな存在で、子供も殆ど関係がない。三代の女のうち、やはり「母」の強烈な存在感が一番。それと相続問題を含めて経済・お金の話が細かくて現実的であり実利的でもある。また書名になぜ「新聞小説」と入っているのか(現実にこれは読売新聞の連載小説であったのではあるが、)意味深長な面白さ

もある。読後感は、男性の 1 人として、「いやー女性はしっかりしている、恐れ入りました」というのが、実感。

『アメリカは日本経済の復活を知っている』

浜田宏一著 講談社刊 2013 年 1 月第 3 刷

アベノミクスで最も注目を集めている日本の経済学者といえばこの人イェール大学名誉教授浜田宏一氏であろう。東大教授時代のゼミナールの教え子白川日銀総裁を今までの日銀の政策に拘ってデフレを解消できない落第生、と烙印を押して現在の黒田新総裁に首を据えかえるきっかけを作った。今は安倍首相率いる内閣府の研究所長。浜田教授の進言もあって生れ

た黒田新日銀総裁が、「2 年間でデフレを解消して年 2 %のインフレにする、」と宣言しただけで、為替は大きく円安に、株価は大幅上昇し、景気回復ムード氾濫、そーれ見なさい私の見立てどおりになっているだろうと、得意満面の浜田名誉教授の顔が想像できる。しかし円安の効果は出て輸出企業はホクホクだが、さりとしてインフレになっているのは円安効果で値上がりした輸入品だけ。今から 2 年後どうなるやら、これはやってみなければ分かりません、というのが現状。

4月に文庫に入った新しい大人の本

フィクション

『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』(村上春樹著 文藝春秋 2013) 『夢幻花』(東野圭吾著 P H P 研究所 2013) 『わりなき恋』(岸恵子著 幻冬舎 2013) 『明日死ぬかもしれない自分、そしてあなたたち』(山田詠美著 幻冬舎 2013)

朝井リヨウ著『もういちど生まれる』(幻冬舎 2011) 『星やどりの声』(角川書店 2011) v 『少女は卒業しない』(集英社 2012) ※request

『路上の義経』(篠田正浩著 幻戯書店 2013) 『日輪の賦』(澤田瞳子著 幻冬舎 2013)

『江戸川で聴いた中野ミツさんの昔語り』(野村敬子編 瑞木書房 2012)

『もうひとつの街』(ミハル・アイヴァス著 阿部賢一訳 河出書房新社 2013) ※注目のチェコの作家代表作

エッセイ

『本声を聴け ブックディレクター 幅允孝の仕事』(高瀬毅著 文藝春秋 2013) 『一陽来復 中国古典に四季を味わう』(井波律子著 岩波書店 2013) 『隅っこの四季』(出久根達郎著 岩波書店 2013)

ノンフィクション

『キャパの十字架』(沢木耕太郎著 文藝春秋 2013) 『誰も知らないラファエッロ』(石鍋真澄、堀江敏幸著 新潮社 2013)、

『歴史が後ずさりするとき』(ウンベルト・エーコ著 リッカルド・アマディ訳 岩波書店 2013)

『世界の神話伝説図鑑』(フィリップ・ウィルキンソン著 大山晶訳 原書房 2013)

『できる大人のモノの言い方大全』(話題の達人倶楽部編 青春出版社 2013) 『方言漢字』(笹原宏之著 2013)

『この厄介な国、中国』『誰も知らなかった皇帝たちの中

国』(岡田英弘著 ワック 2013) ※request

『新・百人一首』(岡井隆、馬場あき子、永田和宏、穂村弘 選 文春新書 2013)

文庫

『チェーザレ・ボルジア あるいは優雅なる冷酷』(塩野七生著 新潮文庫 2013) 『時の娘』(ジョセフィン・テイ著 小泉喜美子訳 ハヤカワ文庫) 『虚ろ舟 泣きの銀次参乃章』(宇江佐真理著 講談社文庫 2013)

寄贈本

『完全版 人間の運命1~8』(芹沢光治良著 勉誠出版 2013) ※まだ続きます。Mさんより新刊全巻寄贈

『給食で死ぬ!!』(大塚貢著 PHP 研究所 2013)

『源氏物語を死んでいますか』(阿刀田高著 新潮社 2013) 『赤ひげ診療譚』(山本周五郎著 新潮文庫)

『さらば、夏の光よ』(遠藤周作著 講談社文庫)

『霞町物語』(浅田次郎著 講談社文庫) 『無宿

・吉原裏同心18』(佐伯泰英著 光文社文庫) 『サン

姉妹、ふしぎな旅日記』(赤川次郎著 講談社文庫)

『こころ』(夏目漱石著 角川文庫) 以上3人の方より

4月に文庫に入った子どもの本

えほん

『に〜っこり』(くもん出版) 『ネムネムのじかん』(B L出版) 『ことりのゆうびんやさん』(偕成社)

『ひつつきむし』(WAVE出版) 『せんせいといっしょ』(B L出版) 『ライオンをかくすには』(ブロンズ新社)

『とっておきのいちにち』(文溪社) 『もしもぼくのせいがのびたら』(にしまきかやこさく こぐま社)

『あさになったのでまどをあけますよ』(偕成社) 『ゆきのよあけ』(童心社) 『かあさんふくろう』(偕成社)

『はしをつくる』(ほるぷ出版) 『チュンチェ』(光村教育図書) 『ブルムカの日記』(石風社) ※request 『花じんま』(福音館書店) 『にぎりめしのすきなだいいじゃ』(小学館) 『くまの皮をきた男』(こぐま社) 『岩をたたくウサギ』(新日本出版社)

かがく絵本

『へびのひみつ』(ポプラ社) 『おかしなゆき ふしぎなおおり』(ポプラ社) 『ホネホネ絵本』(あすなろ書房) 『ソウの森とポテトチップス』(そうえん社) 『ゲルニカ、ピカソ故国への愛』(富山房インターナショナル 2013)

よみもの

『じゃんけんのすきな女の子』(松岡享子さく 大社玲子え 学研教育出版 2013) ※ 『おおきなおおきなおいも』(赤羽末吉作・絵 福音館書店) 『一さつのおくりもの』(森山京作 鴨下潤絵 講談社 2012) 『こぎつねいちなねんせい』(齊藤洋作 あかね書房) 『ともだちのはじまり』(最上一平作 みやこしあきこ絵 ポプラ社 2012) 『もしかしたら名探偵』(杉山亮作 中川大輔絵 偕成社)

『小さい水の精i』(プロイスラー作 はたざわゆうこ訳 徳間書店) 『発電所のねむるまち』(モーバーゴ作 杉田七重訳 あかね書房 2012) 『劇団6年2組』(吉野万理子作 学研教育出版 2012) ※リクエスト

『嵐にいななく』(マシューズ作 三辺律子訳 小学館 2013) 『天才ジョニーの秘密』(アップデル作 こだまともこ訳 評論社) 『モッキンバード』(アースキン作 ニキリンコ訳 明石書店 2013) 『オズの魔法使い』(ボウム作 江國香織訳 小学館 2013) 『若草物語』(オールコット作 矢川澄子訳 福音館書店)

広瀬恒子さんからまた 50 冊以上の子どもの本新刊をいただきました。5月には、書架に並べます。